

京都に赴任して1年、戦前からのエレベーターが現役で活躍していると聞いた。場所は京都市中心部の鴨川沿いだ。最も古いものは92年間で現存するものでは日本最古という。26歳の記者が現場を訪ねた。

四条河原町の東側にある中華料理の老舗「東華菜館」。ギョー、バタン、ゴォー……。何か映画のワンシーンのような独特なサウンドが身体中に響く。確かに昇ってはるわ。日本最古のエレベーターに隣のお客さんが感想を漏らすのも無理はないだろう。

建物は前身である西洋料理店「矢尾政」が新しいビアレストランをイメージして建てた。このスペイン風のバロック建築に1926年に導入されたのが、米OTIS製のエレベーターだ。

1つの階を上がるのに2、3秒はかかっているだろう。格子状の蛇腹式の内扉や時計の針のように振れる「フロアインジケーター」が異空間に誘うような気持ちにさせる。操作にコツがいるため従業員が必ず運転するそうだ。東華菜館も「当店で一番働いてくれます」と満悦だ。

日本オーチス・エレベーターによると、日本で最初の電動エレベーターは1890年に東京・浅草にあった眺望施設「凌雲閣」に設置された。その後、日本銀行の本店など

当時モダン 今は誇り



にも導入されたが、どちらも姿を消した。現存最古が東華菜館となったという。

次に向かったのは鴨川沿いに南に向かったところにある「鮎鶴」。創業1870年の料理旅館だ。1925年竣工の建物は登録有形文化財の指定を受け、新館には34年に導入された手動扉のエレベーターがある。

「大正時代の後半は新しいものを導入しようという雰囲気が強かった」と話すのは鮎鶴5代目、田中博社長。当時はそもそも高い建物が少ない時代で、「一般のレストランや料理屋にエレベーターがあるのは珍しかった」という。モダンな雰囲気を醸し出す手段だったのかもしれない。

導入されて90年前後がたつエレベーター。維持管理は大丈夫なのか。日本オーチス・エレベーター京都支店の牧野浩士さんは「OTIS社は人が安全に乗れるエレベーターを発明した会社。メンテナンスできるノウハウがある」という。

なお現役 異空間を演出

東京のほうで京都よりもエレベーターの導入は先だった。ただ、関東大震災や空襲、ビルの高層化が進んだことで、導入初期のエレベーターはなくなっていたという。一方で、京都は震災が少なく古いエレベーターが残ったとみられる。「歴史あるものに誇りを持つ京都人の理解もあった」（日本オーチスの牧野さん）というのも一つの要因かもしれない。

ちなみに、京都の居酒屋にはエレベーターという名前のメニューがある。京都随一のディープスポットとして知られる「四富会館」。アクの強そうな店主が仕切る店が所狭しと並ぶ。一番奥にある「てしま」にもそのメニューが。恐る恐る注文すると出てきたのは油揚げに大根下ろしをのせたシンプルなもの。なぜこの名が付いたか考える記者を横目に、店主はニヤニヤしている。「要は『あげ』と『おろし』で上げ下ろし。昇降機のエレベーターやないか」

店主いわく、京都に日本最古のエレベーターがあるからこの名前がついたらしい。ふに落ちないが、味はうまい。毎日、ふとした瞬間に乗ってしまうエレベーター。そんな歴史を「頭」と「腹」で考えたいなら京都に足を運んでみてはどうだろう。

(赤間建哉)



エレベーターの歴史

時期	内容
紀元前 236年	アルキメデスが滑車とロープを使って上げ下ろしする方法を考案
1852	エリシャ・オーチスがエレベーターの落下防止装置を発明、翌年エレベーターの販売を開始
1890	浅草・凌雲閣に日本初の電動エレベーター設置、1923年関東大震災のため撤去
1926	矢尾政(現・東華菜館)にエレベーター導入
1934	鮎鶴にエレベーター導入
2016	三菱電機が当時世界最速のエレベーターを開発

(注)日本オーチス・エレベーター資料などより